

サロン展

写真のノスタルジア

過去の出来事を懐かしむ気持ち——ノスタルジア。一定の時間を切り取り、物質のうちに留めおこうとする写真に、人はしばしば、この感情を抱いてきました。

ノスタルジアは、1921年に福原信三たちが結成した「写真芸術社」にとって、とても厄介な問題でした。彼らは写真を独自の芸術たらしめるべく、「光と其諧調」による新しい表現を打ち立てますが、その過程で、ありふれた写真にも備わりうる過去への郷愁は、切り離すべき古い美学として退けなければならなかったのです。

一方で「写真芸術社」の作家たちは、過去の気配がのこる都会の路地裏や自然の中をそぞろ歩き、そのかけらを見つけては、フィルムの中に記録し、持ち帰りました。江戸の情緒が急速に失われゆく近代都市・東京に暮らした彼らが、たまらなく惹きつけられていたのも、ノスタルジアだったのです。

当館のコレクションで構成される今回のサロン展では、「写真芸術社」と、その後継である「日本写真会」に集った作家たち(福原信三、大田黒元雄、掛札功、石田喜一郎)の作品、および刊行していた雑誌、『写真芸術』などの資料をご紹介します。

写真の根源たる光の美学を突き詰めつつ、自らのノスタルジアとははざまに葛藤した彼らの作品群から、改めて一枚の写真の奥深さを堪能下さい。



福原信三「作品名不詳(三津海岸風景)」1926年



大田黒元雄「作品名不詳(漁)」
手製作品集(無題)より 1921年頃

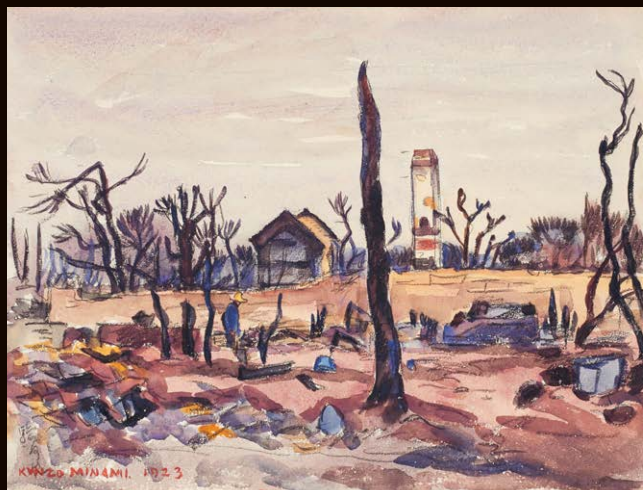
石田喜一郎《夏座敷/Summer Rooms》(部分)
1925年頃

特別陳列

関東大震災のイメージ

2023年は、関東大震災の発生から100年を数えます。江戸情緒の残る東京の市街地が、近代都市へと一気に変貌する契機となったこの震災は、当時の政治・社会・文化に多大なる影響を与えました。今回、当館コレクションの中から、南薫造が関東大震災下の東京を描いた絵画や、同時代に制作された写真などを、特別出品いたします。絵画と写真が描き出すリアリティの違いにも着目しつつ、100年前に東京を見舞った未曾有の大地震に、思いを馳せていただければ幸いです。

南薫造《大震災東京スケッチ 駿河台》1923年



すべて渋谷区立松濤美術館蔵

2023年 3月22日(水) ▶ 28日(火)

休館日 3月27日(日)

開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

会場 渋谷区立松濤美術館 2階サロンミュージゼ・特別陳列室

主催 渋谷区立松濤美術館

入館料無料
Admission Free

学芸員によるギャラリートーク

3月25日(土)・26日(日)

各日午後2時～ 約30分

※無料 ※事前予約の必要はありません

※会期や開館時間、イベント等変更する場合があります。
最新情報は当館ホームページ等でご確認ください。



渋谷区立 松濤美術館
THE SHOTO MUSEUM OF ART

〒150-0046
渋谷区松濤2-14-14
Tel.03-3465-9421
<https://shoto-museum.jp>